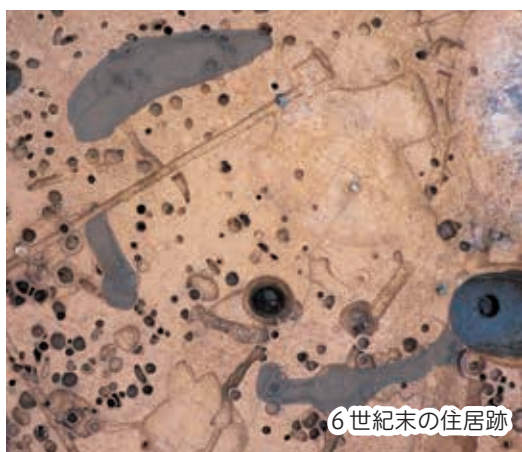


複雑に検出された遺構群の中で 埋没した住居跡を発見



調査区全景（左に梯川、右奥に一針集落）



6世紀末の住居跡



住居外周りの溝で発見された土器類

一針C遺跡は梯川河川改修工事に伴い平成25年度より発掘調査を実施している弥生～中世の複合遺跡です。平成28年度からは新設堤防の内側を調査しています。6～9月は、「高水期」のため堤防の内側の発掘作業が行えませんが、旧堤防により遺跡が削平されずに保護されてきた箇所にあたり、遺構が良く残っています。

遺跡は各時代を通じた居住域で、明治初期の「川切り」で人工的に掘削された現河道の際まで柱穴や溝、井戸などの遺構が残っています。令和2年度秋冬期の調査では6世紀末頃の住居跡が見つかりました。「平地式建物」という弥生時代後半（1～3世紀頃）に北陸の低地で多く作られた建物の形（本遺跡でも発見されています）がかなり崩れた姿と理解されます。これまでの遺跡の調査では、6・7世紀代の遺物が見つかるものの、住居跡がなかなか見つからず不明でした。今回の発見で認識を新たに、調査を進めてまいります。



R2 発掘調査

なかの ごう い せ き の み し こ ま つ し
中ノ江遺跡 [能美市・小松市]

中ノ江遺跡は能美市から小松市へまたがる遺跡で、海岸からおよそ 2.8 km 内陸の沖積平野に立地しています。平成 28 年度に北陸新幹線建設工事に伴い、14,000 m²を調査しました。その結果、弥生時代から中世にかけての集落が見つかりました。今回は北陸新幹線工事にかかる取付け道路工事に伴い調査を実施しました。

弥生時代後期から古墳時代を中心とする集落域からは、前回の調査で確認された、弥生時代後期後半と考えられる 2 条の溝の続きを検出しました。この溝を境に山側（東側）では井戸や柱穴などの遺構が多く、海側（西側）では少ないことから集落域の境界を示す役割が考えられます。また、時代ははっきりしませんが、ウシとみられる足跡を確認し、水田などが広がっていた景観が推定されました。

出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器を中心に、石鏃などの石器や、柱根や杭などの木製品が出土しました。



調査地の空中写真（右側が海）



2 条の溝（南西から）



掘立柱建物（南から）



木柱が残る井戸（南から）



ウシ？の足跡



古墳時代の土器出土状況

R2 発掘調査

かんぼうじ いせき かなざわし
観法寺ヤツタ遺跡 [金沢市]

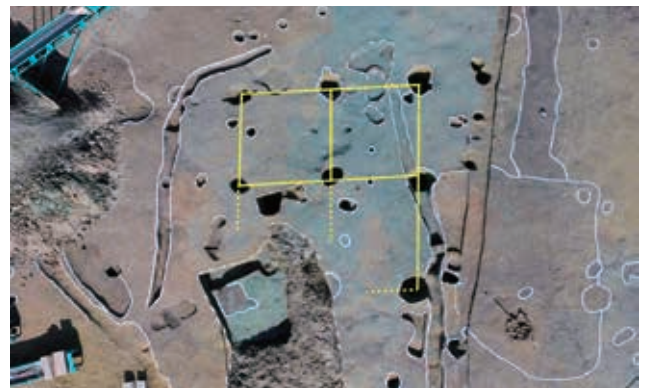
観法寺ヤツタ遺跡は金沢市北東部、森下川流域の右岸丘陵谷部に立地しています。金沢東部環状道路（国道 159 号・通称山側環状）改築に伴い平成 30 年度に 1 次調査が実施され、今回の 2 次調査では 4,340 m²を調査しました。その結果、丘陵部の谷間に営まれた古代の集落であること、掘立柱建物や河、溝など確認できた遺構の多くは平安時代後期のものであることがわかりました。

谷間には幾度となく土砂の流入があり、河や溝からはすぐ脇にある観法寺ジヤマ窯跡で焼成された軒丸瓦・平瓦の他、斎串や建築部材・下駄・曲物等の木製品、古代の土師器や須恵器、鉄鍋破片や鉄滓など铸造関連遺物、管玉未成品、縄文土器や石匙・打製石斧・磨製石斧・凹石など、縄文時代から中世にいたる出土品が見られました。

谷奥側には径 60～70cm ほどの柱穴が並ぶ 2 間×2 間の掘立柱建物（総柱建物）1 棟、土師器壺がまとまって置かれた跡が 3 箇所見つか、古代末頃の祭祀的空間が広がっていたと考えられます。



遠景（写真奥が河北潟と日本海、東から）



掘立柱建物（南から）



瓦などが出土する溝、河跡（西から）



掘立柱建物の柱穴（土師器壺が出土）



土師器壺がまとまって出土



溝から出土した土師器と赤い顔料

R3 発掘調査

令和3年度発掘調査と出土品整理

令和3年度は、5件16,910㎡の発掘調査と、29件の出土品整理を予定しています。発掘調査では、平成28年度に本格化した北陸新幹線関連の発掘調査を昨年度までに完了し、今年度の内訳は国土交通省事業が3件、県土木部事業が2件となります。現在、県内各地で調査が始まっており、毎日、作業員とともに調査を進めているところです。その成果は、HPや現地説明会、『石川県埋蔵文化財情報』を通して、できるだけ早くお伝えしていきたいと考えています。

また、出土品整理は、大量の遺物が出土した北陸新幹線関連の整理作業が本格化しており、遺構・遺物とも新たな知見が加わりつつあります。これらの整理と検討が終わった遺跡から、順次、発掘調査報告書を刊行する予定であり、昔の人々の生活や本県の歴史研究に寄与していきたいと考えています。

令和2年冬から全国的に拡大した新型コロナウイルス感染症は、現在進行形で、発掘調査や出土品整理の諸作業にも大きな影響を及ぼしています。例えば、発掘調査では、プレハブの増床、毎朝の検温や消毒、換気、マスクの着用、熱中症対策にも配慮しながらの「密」を避ける、よりの確な現場の運営管理など様々な感染症予防対策を講じており、昨年度は計画していた現地説明会を残念ながら中止しました。また、出土品整理でも同様の対策に加えて、昨年度春の緊急事態宣言期間に在宅勤務を一部取り入れ、土器を持ち帰って実測作業などを行いました。



小松市一針C遺跡作業風景



遺物の洗浄



土器の分類と接合（八日市地方遺跡）



井戸樫の実測（弓波遺跡）

コロナ対策

新型コロナウイルス感染症対策

当センターでは、新型コロナウイルス感染症予防対策として、国等のガイドラインに基づいて、3つの密（密閉、密集、密接）の回避やマスク着用、手指の消毒、身体的距離の確保などを実施し、感染予防に努めています。具体的には、以下の対応を行っています。

1 事前周知：来館者へのお願い事項をホームページに掲載

- ・マスクをご着用ください
- ・咳、発熱、強い倦怠感等のある方は、来館を控えてください
- ・館内では密にならないよう2m程度の間隔を開けてください

2 職員の対応

- ・毎日、検温及び体調の確認をしています
- ・マスクの着用、手指の消毒を行っています

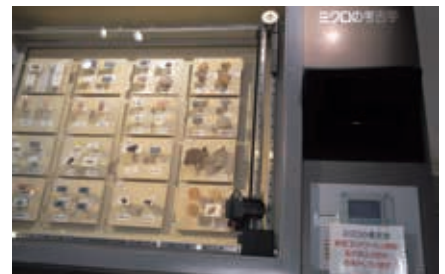


3 入館時

- ・マスクの着用と、手指の消毒をお願いしています
- ・センター施設への入館は、本館入口の一カ所とし、検温、受付表の記入をお願いしています
- ・順路にそってお進みください
- ・入口での感染防止対策の看板設置、館内放送による注意喚起を実施しています



本館入口



展示物操作ボタン使用禁止（展示室）

4 見学、体験（展示室、体験工房）

- ・順路にそってお進みいただき、密にならないよう入場を制限する場合があります
- ・密集状態や大声での会話をご遠慮願います
- ・出入口扉の常時開放（夏・冬季は常時空調運転）、窓を開放しての換気を実施しています
- ・展示物操作のタッチパネル等機器の使用を中止しています
- ・体験メニューを限定しています（指導時密になるもの、頻繁な除菌を要するものは未実施）
- ・手摺り、用具等不特定多数が触る箇所の消毒を実施しています
- ・古代体験ひろばの復元住居への入室を中止しています
- ・学習講座は感染状況を見極めて、定員を減らすなどして実施しています（R元年度の発掘報告会の中止以外は、延期等で事業を実施しています）

また、令和2年4月には本県が国の緊急事態宣言（特定警戒都道府県）の対象となったため、当センターは臨時休館となり、多くの人に古代体験をしていただく機会がなくなりました。

そこで、家にいながらでもできる古代体験として、ぬりえやペーパークラフト、まいぶんクイズをホームページで公開するとともに、後日、作品等を当センターにもって来ていただくことで、まいぶんスタンプなどを押印（個数に応じて景品進呈）し、埋蔵文化財に親しむ環境を整えました。

※臨時休館：R2.4.11～5.24、R3.5.12～6.13



「お家で古代体験」ホームページに公開

R3 古代体験

「ミニ鉄器づくり」

令和3年3月14日（日）に「鉄器づくり」が行われ、20名の参加がありました。

最初のガイダンスでは、鉄器の特徴や製作方法、小松市の八日市地方遺跡で出土した「柄付き鉄製まつせいでつせい鉈つぎ」について説明を受け、鉄の歴史や鉄器の種類等について学びました。

次に古代の復元住居で行われた鍛造の体験では、熱した鉄釘を打ち鍛えて、ペーパーナイフを製作しました。はじめは「難しい!」、「思うような形にならない」という声が多かったですが、各々が工夫して刃の部分の完成させました。できあがった鉄器は砥石で研ぎ、柄をひもで巻いて仕上げました。試し切りでは、自分で作った鉄器の切れ味に驚く姿もあり、「鍛造を自分でやってみて、古代の人の大変さがわかった」、「鍛造をやったり研いだりするのが楽しかった」との感想が聞かれました。



まず、ガイダンス



鉄を鍛える参加者

R2 情報発信

発掘報告会『いしかわを掘る』

令和2年度に県内各地で行われた発掘調査の中から、注目される遺跡を紹介する発掘報告会「いしかわを掘る」を令和3年3月7日（日）に石川県立美術館ホールで開催しました。

はじめに、当センター所長が県内で行われた発掘調査の概要を紹介し、続いて6名の発掘担当者が調査成果を報告しました。金沢市南新保C遺跡では、弥生時代のほうけいしゅうこうぼ方形周溝墓や古墳時代の円墳等。加賀市弓波コマダラヒモン遺跡では弥生時代後期後半～終末期のあかいろうるしさいもんようき赤色漆彩文容器の出土。弥生時代の漆器は全国的に少なく注目されるものです。羽咋市しげ寺家遺跡では、遺跡の重要エリアでのまつりに深く関わる大型焼土遺構の調査成果。小松市古府シマ遺跡では県内3例目となる木造僧形神立像の出土。七尾市七尾城跡は山上部の城内で初となるちやうどまる調度丸の発掘調査を実施。金沢城跡では二の丸にあった建物の礎石基礎を確認したことなどの報告がありました。

参加者からは、特に若い調査員の報告がわかりやすく、楽しい報告会だったとご好評をいただきました。



金沢市埋文センター鏡調査員の報告



会場の様子（コロナ対策しています）

調査研究

『環日本海文化交流調査研究事業』

石川県は、日本海に突き出した能登半島という地理的特性もあり、古くから九州～北海道に至る日本海沿岸各地と様々な交流をおこなってきました。当法人では、この歴史的特徴を理解するため、平成12年度から共通のテーマを掲げて、各地の研究者と共同調査研究を実施しています。これまでの研究テーマは、「玉」、「集落」、「港」、「墓」、「陶磁器」など多岐にわたり、その成果を研究集会および『石川県埋蔵文化財情報』にて公表しています。直近では、令和元・2年度に古代の挽物容器^{ひきもの}をテーマに、北陸地方における特色などを検討しました。令和3・4年度は、古墳時代をテーマとした共同調査を計画しており、本県の新たな特色と魅力が明らかになることが期待されます。



令和2年度研究集会（2月19日）の様子



令和2年度研究集会での挽物容器の検討会

調査研究

14県が連携した共同調査研究『古墳時代の刀剣類』

石川県や島根県など14の県では平成26年度に各県による地域的な研究では見えにくかった日本の大きな歴史の流れを解明するため「古代歴史文化協議会」を設立し、共同調査研究を進めています。第1期は「古墳時代の玉類」をテーマとして展覧会の開催や成果図書の刊行により研究成果を発信しました。現在は、「古墳時代の刀剣類」をテーマとして、4名で研究を進めています。

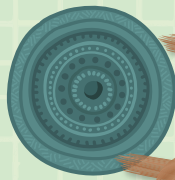
新型コロナ禍のため、例年おこなっている14県が一同に会する研究ができませんが、石川県から出土した弥生時代後期～古墳時代の刀剣類を全て集める基礎研究を終えました。これからは、12月開催予定の中間報告会と令和4年度の展覧会開催・成果図書刊行に向けてがんばっています。

調査成果・発信情報はホームページにアクセス！

<http://kodairekibunkyo.jp/>



オンラインによる研究集会（令和2年10月25日）



まいぶん日誌

令和3年
(2021)

令和3年
(2021)

3月～6月



3月

古代のはたおり体験

トン・トンとリズムに
乗って編んでいます



4月

職員研修：工房編



古代のワザの習得！
まが玉づくり

職員研修：パソコン編



イラストレーター
の習得



県広報テレビ番組の取材



埋文センター施設見学



土器の接合の見学

八日市地方遺跡出土「柄付き鉄製鉈^{やりがんな}」
実物の春季特別公開



実物を間近に見てください

手形・足形づくり

土偶づくりを体験！

パパとママ
頑張って押しています



5月

上手く焼けました！



職員試作研修 弥生土器づくり

壺・甕どれも
難しいです



職員試作縄文土器の野焼き



ボクの手形
きれいに出来てね



職員試作研修 縄文土器づくり

またもや新型コロナウイルス
感染症対策のため臨時休館です



6月

